

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	エル・ソーラ仙台	
2 指定管理者	公益財団法人せんだい男女共同参画財団	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 54,399人(前年度比 129.5%) 令和4年度 41,995人 令和3年度 31,350人	
	《事業》 ・施設の管理運営 ・男女共同参画関連情報の収集提供 ・各種相談の実施 ・男女共同参画に関する市民活動の支援及び交流の促進 ・大規模災害時における仙台市女性支援センターの運営	
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 225,401千円 (233,271千円) ・ その他市が負担した費用 112,638千円 (106,349千円) 《収入》 ・ 使用料収入 7,179千円 (7,118千円) ・ その他収入 48千円 (31千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ①利用者アンケートの実施 令和5年10月12日から11月12日まで施設利用者に対してアンケートを実施し、アンケート結果及びサービス改善に対する提案・意見への回答を施設内に掲示するとともに、ホームページ上で公開した。 ②センター利用団体交流会の実施 「男女共同参画推進せんだいフォーラム2023」期間中に、センター利用団体同士の情報交換を促す交流会を実施し、利用者の意見を職員が聴き取った。	

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的や施設運営上の基本方針に基づき、適切に管理運営されており、設置目的の達成に向けて、職員一人ひとりが事業企画や施設管理に反映できるよう、会議や研修の機会を通じて意識を共有している。また、館内の壁面や展示スペースを活用し、センターの事業や機能の紹介を常時行っているほか、男女共同参画推進への理解と関心を高めるための企画展示を随時行っている。また、利用者が公平・公正に施設を利用できるよう情報提供や受付を行うとともに、市民交流・図書資料スペースの運営や財団の市民活動サポート事業などを通して市民が自主的な活動を行うための支援や交流の場を提供している。	21/21
II 施設の運営管理体制	職員の勤務状況、配置状況、施設の開館、指定管理料について適切に管理されているほか、イベント開催時や繁忙期も、施設運営や市民サービスに支障を来さないよう、柔軟な職員配置を行っている。情報セキュリティ対策では、記録媒体やデータの保管・管理を適切に行っているほか、内部研修によりすべての職員が個人情報保護について高い意識を持つよう努めている。また、事故発生時や非常時の体制も整備し、随時見直しを行っているほか、男女共同参画に係る施設の全国組織で運用する相互支援システムを活用し、災害時には全国の加入施設と連携、支援を行う体制を整えている。	31/30
III 施設・設備の維持管理	建物・設備・備品の適切な維持管理を行うとともに、清掃・警備等の委託業務についても、随時情報を共有しながら適切な管理を行っている。また、環境への配慮については、ブラインドの使用による冷暖房の効率化や窓際の消灯による節電を実施するとともに、利用者にはゴミの持ち帰りを呼びかけるなど積極的な対応を行っている。	20/20
IV サービスの質の向上	服装や身だしなみ、電話窓口対応など普段から適切な対応に努めており、姉妹館であるエル・パーク仙台との定期的なミーティングにより常にサービス向上のための情報共有を行っている。また、貸室の備品等について写真付きの資料を用意し、申し込みの際に提示しながら説明を行ったり、研修室内の音響・映像機器の操作マニュアルを見直し、よく使われる機能に絞り大きな文字と写真で簡潔に記載した簡易版を作成するなど、初めて施設を利用する方や操作に不慣れな方にも分かりやすいよう工夫を行っており、常に利用者目線に立ったサービスの提供に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	施設の使用許可、使用料徴収や収納、還付事務等については規程類に従って適切に行われている。図書資料の蔵書検索ができるウェブページをQRコード付きの掲示物及びカードで案内するなど、利用者の利便性向上を図っている。相談事業については、関係機関と連携しながらニーズを把握し、様々な課題を持った相談者に対し重層的に支援を行った。困難を抱える女性への支援事業では、自己肯定感や受援力の向上を目的として、参加者同士で語り合う場を提供したり、出張型相談会を実施したりと、積極的に各種支援に取り組んでいる。また、企業の女性活躍推進をサポートする「企業の未来プロジェクト」のメインコンテンツである「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム2023」では、地元企業から推薦されたマネージャーコース22名が参加し、約半年間にわたるプログラムを受講。女性リーダーの育成をサポートした。	32/30

### 三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人せんだい男女共同参画財団）による自己評価》
<p>仙台市の男女共同参画推進の拠点施設として、エル・パーク仙台とともに2館で機能を分担し、センターの設置目的に則った管理運営を行っている。施設管理、市民交流・図書資料スペース運営、相談業務を協定書・仕様書に沿って円滑に実施するとともに、指定管理事業と財団自主事業等を連携させながら効果的に施設運営を行っている。</p> <p>(1) 施設管理及び市民交流・図書資料スペースの運営            窓口で丁寧なニーズの聞き取りや分かりやすい説明を心がけたほか、施設内の設備・備品や案内を随時更新し、利用者の使い勝手を意識した施設運営を行った。毎月、課内会議やエル・パーク仙台受付担当職員とのミーティングを行い、サービス向上のための情報共有を図っている。令和6年4月に「障害者差別解消法」により義務化された障害者への合理的配慮に向けて、エル・パーク仙台で実施した仙台市障害企画課の当事者アドバイザー派遣事業に参加し、得られた知見を職員間で確認・共有した。</p> <p>エル・ソーラ仙台図書資料スペースにおいて男女共同参画に関する図書・映像資料を収集・提供するとともに、エル・パーク仙台でも主催事業実施の際に関連図書を貸し出している。図書利用を促進するため、テーマを決めたピックアップ図書の展示、主催事業の会場での関連本の紹介のほか、本を題材にジェンダーについて語り合うミニイベントを年4回(内1回はエル・パーク仙台で)実施し、利用者の拡大につながった。</p> <p>(2) 男女共同参画推進に関する相談事業            令和5年度は、2名の相談員が担っていたAT相談を面接相談の中で相談員全員が行う体制とし、相談機会の拡充を目指した。精神疾患や障がい、生活困窮等の複合的な背景があり対応が難しいケースが増えていることから、月1回のケース検討会に加え、令和5年度からは毎週ケース受理前会議を行うとともに、緊急ケース検討会を適宜実施し、支援方針の検討や他機関との適切な連絡調整に努めた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>エル・ソーラ仙台の管理運営にあたり、利用者の意見や要望を取り入れつつ、男女共同参画推進センターとしての市民活動支援、男女共同参画の推進に資する積極的な施設運営を行っている。また、図書資料等収集・情報提供事業については、主催事業や相談事業等と関連したテーマでの図書のピックアップや、事業と関連する図書をエル・パーク仙台でも貸し出せるようにするなど図書利用促進のため積極的に取り組んでいるほか、本を題材にジェンダーについて語り合うミニイベントを実施し、新たな利用者の登録や貸出につながっている。</p> <p>相談事業については、DVなど女性への暴力被害者への安全確保にも配慮した相談対応や自助グループ支援を継続して取り組んだ。また、関係機関と連携し、対象者の現状からニーズを把握し、就業自立相談や自立を目指す女性向けのキャリア支援事業につなげたほか、コミュニケーションに悩む女性が多いことを踏まえ、AT(アサーティブネス・トレーニング)相談を実施するなど困難な状況にある女性の自立支援の充実に努めている。</p> <p>困難を抱える若年女性への支援事業として実施している出張型相談会では、3回の開催に延べ258名が参加。令和5年10月に開催したイベントでは市内で活動する12団体がブースを出展し、延べ232人が参加するなど、さまざまな困難等を抱える女性を民間支援団体と繋げる場を提供している。</p> <p>女性活躍推進事業については、企業の女性活躍推進をサポートする「企業の未来プロジェクト」のメインコンテンツである「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム2023」を実施し、マネージャーコースに22名が参加。女性リーダーの育成をサポートした。その他、社内研修への講師派遣等、質の高いコンテンツを提供し、在仙企業の女性活躍推進を強力に推し進めた。</p> <p>指定管理者として、関係する条例等の内容に基づき適切に施設の管理運営を行うだけでなく、日頃から地域の女性や団体、企業等とのネットワークを広げ、多様な主体と連携することで発信力を高めるなど、男女共同参画推進センターとしての役割を十分に果たしており、非常に優れた運営管理を行っていると評価できる。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項	
図書資料の利用促進、男女共同参画推進に資する情報の効果的な発信	エル・ソーラ仙台における閲覧・貸出サービスだけでなく、エル・パーク仙台においても主催事業実施の際に関連図書の貸出を行った。図書等資料の更なる利用を促進するため、テーマ毎のピックアップした図書の展示、主催事業参加者に向けた関連本の紹介のほか、本を題材にジェンダーについて語り合うミニイベントを年4回実施、内1回はエル・パーク仙台で出張版を開催し、新たな利用者の登録や貸出につながった。また、図書資料の問い合わせに応じるレファレンス対応事例の蓄積・共有や、職員同士によるブックトークの活動を通して、職員の対応力や専門性の向上を図っている。
働く場における女性の活躍推進事業	「企業の未来プロジェクト」は9年目を終え延べ219社(実数で80社)が参加。複数年継続参加いただくことで企業内の女性活躍の後押しとなっていることがうかがえる。事業広報については、財団が持っている企業リストや在仙の経済団体の広報ツールを活用し、多くの企業への周知や参加につながっている。また、「仙台女性リーダー・トレーニング・プログラム」修了者ネットワークと協働で働く女性向け事業を実施することで、対象者のニーズや時宜にかなったテーマ設定ができるとともに、修了者に登壇やファシリテーターなど活躍の場を提供でき彼女たちのエンパワーメントにもつながっている。
困難を抱える女性への支援事業	困難を抱える女性の支援事業として、令和4年度に実施した「仙台市女性の暮らしと困難に関する実態調査」から見えた現状や課題を多くの市民と共有するイベントを開催したほか、ウェブで広く発信した。毎年実施してきた、生きづらさを感じている女性当事者向け事業を、調査結果を踏まえて改変。20代までの若年女性を対象を絞って試行的に実施し、調査にも協力いただいた若年女性の支援団体と相談して内容や手法を工夫することで、当事者に届けたい内容を効果的に伝えることができた。
	また、令和4年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響等により不安や困難を抱えた女性を支援するため、官民の支援団体等の連携による出張型相談や一時的な居場所を提供するレスパイト事業、つながりを作る機会等としての生理用品の配布を行った。各事業により、女性の課題の顕在化や各支援機関との顔の見える関係作り、困難を抱える女性を効果的な支援に繋げるきっかけ作りができた。レスパイト事業ではエル・ソーラ仙台の女性相談経由で実施した支援について、早期に関係機関との連絡会議を開き必要な支援につなげる等、急性期のセーフティネットとして有効に機能活用したとともに、若年女性の自立に向けた伴走支援を民間NPOと協働して行った。

© 評価担当課(施設所管課): 市民局市民活躍推進部男女共同参画課